

(9) 防波堤場所諸コンクリート旋工中

(9) The Breakwall Under Reconstruction,

防波堤の被害

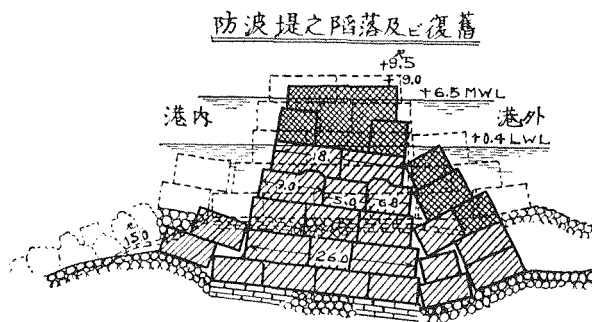
防波堤の被害の主なるものは、東防波堤端部延長約五百間、北防波堤端部延長二百三十間に生じた平均約八尺の陥落にして、頭部は何れも殆ど垂直に約十一尺沈下したるも、燈臺は幸ひ傾倒の危を免れたり、沈下せる部分は海底泥土の上に築造せる個所にして、陥落と同時に外側に傾斜せる部分少からず、又外側下方塊外方に押し出されたる個所あり、且つ防波堤の位置多少不規則に變動せり。雖も、大體に於て防波堤は基儘沈下し崩壊を免れたり。

防波堤復舊工事

復舊工事は先づ沈下せる堤の上面兩側に方塊を

二列に並置し、其間及其上部に場所詰混凝土を施し、高さ干潮面上八尺、天端幅十五尺に仕上げたり、方塊積には十五噸起重機船一隻、曳船一隻及運搬船二隻を使用し、方塊の数は新に製造せるもの及崩壞岸壁より引揚げたるもの合計千百九十三個にして、此外に海側捨方塊として九百個を沈下せり、場所詰混凝土工事には船に据付けたる混凝土混合機二臺、曳船二隻、材料運搬船十二隻を使用し、尙此外に陸上に於て製造せる混凝土を、容積十七才のスキップ十八個にて六個宛工業船に載せ現場に運搬せり、製造せる混凝土の總量千九百八十二坪に達す。

本工事は大正十三年十一月十九日に着手し五月二十二日竣功せり、時、恰も嚴寒の時季に際し、且つ大干潮は夜間に起るを以て、堤所詰混凝土工事は常に夜間作業に俟たざる可からざりしは、従業者の最も苦痛を感ぜし所なり。



(10) Sketch of Wall Before and After.